脱構築研究会第１回　設立記念イベント

「ポール・ド・マンと脱構築」

かつてデリダは、脱構築（ディコンストラクション）を「plus d'une langue（ひとつならずの言語／もはやひとつの言語はない）」と定義した。脱構築は、主唱者デリダにさえも中心化されることなく、いまなお多方向に展開しつつある複数形の出来事の名である。このたび設立された「脱構築研究会」第１回目の研究会では「脱構築批評」の領袖ポール・ド・マン（1919-1983 年）をとりあげる。デリダと共闘しつつも、しばしばデリダと拮抗するかたちで脱構築の多様な可能性を押し広げた存在こそド・マンであった。第１回目は、ド・マン没後 30 年を迎えるにあたり、『盲目と洞察』および『読むことのアレゴリー』という二つの主著の日本語訳がようやく出そろったいま、両著の訳者によるド・マンの著作の検討を出発として、脱構築の新たな諸可能性を模索することを試みる。

Mark Tansey
“Derrida Queries de Man”

日時：2013 年 8 月 3 日（土）14:00-17:30

場所：一橋大学 東キャンパス国際研究館４F 大教室（JR 中央線国立駅下車、徒歩７分）

宮崎裕助（新潟大学）「ジャック・デリダとポール・ド・マン」

土田知則（千葉大学）「文学理論家としてのポール・ド・マン」

入場無料　事前予約不要　主催：脱構築研究会